

Re-Tec Monthly Report.

Monthly Column

金の社員・銀の社員・銅の社員
& 日本の原発を考える

2012.04



～金の社員・銀の社員・銅の社員～

私の仕事上のお知り合いの秋元氏が代表を務める「ジャイロ経営塾」が本を出版しました。その題名が、「金の社員・銀の社員・銅の社員」という非常に興味を引く題名です。もちろん内容も大変興味深く、今の日本企業の社員を独自の自己分析法で調査し、金・銀・銅・鉄の4つのメダルに分類。金の社員になるための方法や金の社員を育てる上司の条件について書かれています。今月はその内容を少しだけご紹介します。是非皆さんも本を読んでみてください。

金メダリスト(やる気社員):常に曇りなく光り輝く会社の財産

- ・会社の方針を理解し、積極的に貢献する姿勢を有する
- ・コミットメントと帰属意識が高い
- ・取り組む仕事に意味を見出している
- ・会社の目標・戦略を事故の課題に置き換えることができる

銀メダリスト(あきらめ社員):金に届かず放っておくと曇りが出る

- ・良い仕事をしたいという意欲はある
- ・帰属意識が高く、会社への愛着もある
- ・会社の目標・戦略への理解が足りない
- ・仕事の優先順位が付けられない
- ・仕事に必要な知識やスキル・技術が不足している

銅メダリスト(しらけ社員):一見すると金だが、錆びると毒性を有する

- ・仕事の内容と自らの役割は理解している
- ・会社の目標・戦略には心から賛同してはいない
- ・熱意・情熱を持って仕事に取り組んでいない
- ・評論家タイプでしばしば会社の方針に批判的である
- ・時にはテロリストとなりうる

鉄メダリスト(ダメ社員):希少性はないが、鍛えれば鋼に

- ・勤務中でも気持ちが仕事から離れている
- ・指示待ちタイプ
- ・会社の方針や業績に、それほど興味を示さない
- ・仕事を据えるうえで必要な知識やスキル・技術の教育を受けていない

* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。
* 当社は、お客様との取引によりいただいた個人情報、各種商品・サービスに関するご提案をするために利用することがあります。

～金の社員・銀の社員・銅の社員～

ジャイロ調査とは

「社員の潜在的な能力を適切に引き出すことができるよう、企業戦略との関係で、社員のやる気・貢献(社員力)を常に評価することを目的としています。」

「…企業の活力は、組織の『論理的な理性』と『熱意に支えられる感情』という2つのベクトルを、『正しい方向性を持ってバランスよく管理・発展させること』から出発するということがわかりました。」
「そして、グローバル時代をかつ抜いていくためには、社員や企業の現状を正しく理解する必要があると考え、そのための調査体系を『ジャイロ調査』としてまとめました。」

ジャイロ調査の結果として、「満足度は業績に直結しにくく、むしろ参画・貢献意欲のほうが、より強く業績に影響する」

「『社員には日ごろから経営理念や方針、目標を説明し、理解を促している』と思っている経営者が多いにもかかわらず、『約8割の社員は会社の方針や将来像が見えないと感じており、会社とのコミュニケーションは十分機能していないと思っている』
というような結論が出たといえます。

やはり、経営者と社員の想いの違いは大きいようです。そして、この本では、会社側の原因とどのようにすれば経営者は金の社員を育てられるか、また、社員自らはどのようにすれば金の社員になれるのかについて説明しています。

金メダル社員の生まれにくい会社には4つの共通項があるといい、金メダル社員になるためにやるべきことはたった3つだと説明しています。実には的を得たポイントになっています。

そして、今ある社員の能力は、本来もっと大きなものであるはずで、それを引き出すことこそ日本の会社が躍進を遂げる最良の方法だと主張しています。

秋元氏は、日本ケンタッキー・フライド・チキン取締役、日本ペプシコーラ副社長、ナイキジャパン社長、ゲラン社長など有名な外資系企業の役員を歴任されました。その経営を通じて感じられたのが、「かつて日本の会社の特徴であった「家族的な絆」のようなものが、今や日本の会社には無くなりつつある中で、グローバル企業では重視されていたのです。」だということだそうです。そして、「悲観的な言葉ばかりを口にするのは、もうやめにしましょう。日本には日本の強みがあり、良さがあるのに、欠点ばかりに目を向けて自信を喪失していても、何も解決はしません。」と鼓舞しています。

自分は何のメダルなのか、自分の会社の経営者は…という想いでぜひ読んでみてください。これからの仕事のやり方、会社への関わり方が変わってくると思います。

* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。
本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。
* 当社は、お客様との取引によりいただいた個人情報、各種商品・サービスに関するご提案をするために利用することがあります。

～日本の原発を考える～

大飯原発再稼働の動きに怒り！

政府は大飯原発の再稼働について「おおむね安全であると確認できたので再稼働に向けて地元の理解を得るようにしたい」と原発再稼働の方針を決めた。

おおむね安全・・・???

これほどの大惨事を招いているにも関わらず、おおむね安全だという説明はあまりにも国民をばかにした説明ではないだろうか。

再稼働ありきの政府の動きは何がいったいそうさせているのだろうか。その背景にはいったい何があるのだろうか？昨年、自民党の元防衛大臣石破氏はテレビで、「**原発を持つことは一年以内に核兵器を開発できるということを意味し、これはすなわち抑止力である。**」という発言をしている。このようなことが政府の意思として働いているのだろうか？

私自身は、今回の政府の結論ありきの議論の理由がまったく理解できない。

関西電力は電力不足に陥ると脅しているからか、地元の雇用がなくなるからか・・・

また、地元の理解・・・の地元とはどの範囲を指すのかも大きな問題である。今までのように、おおい町だけの理解が前提となるのはもう誰も認めないだろう。確かに雇用の問題はあり地元にとっては困るだろうが、それを理由にすることはもう絶対に許されるものではない。もし、それを押し切るのであれば、万が一の場合の賠償も地元は放棄すべきだと思う。

震災から1年たっても未だに原子力村の構造は全く変わっていない。独立の省庁を設置することは決まっているがまだその詳細は決まっていない。今回の再稼働の決定もそのような体制になってからきちっと議論すべきだろ。

このように、原発に対する政府（政府ばかりではないが）の対応のすべてが疑問である。**何が議論され、何を優先しているのかきっちり国民に説明してほしいものである。**

前月号でみたように、再稼働の議論よりも原発をどうするか、**国民へ7つの質問**に明確に答えてから結論を出してほしいと強く思う。

電力不足って本当？

4月16日、民主党の仙石氏は、原発を再稼働しないということは、「**日本が集団自殺することになる**」と過激な発言をした。

「原発をすべて稼働しないのであれば、それに向けて何らか考えなければならない・・・」と、それでは今まで何ら考えていなかったのかということだ。

電力会社も政府も電力がすべてなくなるような脅しとしか思えない発言だ。

では、本当に電力不足は自殺に追い込まれるまで深刻なものなのだろうか？

* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。
本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。
* 当社は、お客様との取引によりいただいた個人情報、各種商品・サービスに関するご提案をするために利用することがあります。

～日本の原発を考える～

ニッセイ基礎研究所の調査によると、「電力不足幅は最も大きい関西電力でも▲4%程度とそれほど大きくない」

また、日本総研は、「関西電力は、2011年と同様の需要を想定した場合、供給力不足は▲210万kW(▲8.2%)に達するとしているが、供給・需給面で努力をすれば供給力不足の回避が可能」としている。その対策としては、まず供給面で、他の電力会社からの供給や揚水発電の効率的運用などにより、2011年の最大需要の水準に近い2,740kW以上に引き上げることは可能としている。また、需要面からは、昨年東京・東北電力管内で実施したような大口需要家への電力使用量制限令による需要抑制や一般家庭での節電などにより全体として15%の削減を目標とし、最終的には2,683万kWを目指すことになろう、としている。

これにより、電力不足が回避されるとしている。

さて、このような調査に対して、関西電力は今回の大飯原発の再稼働に関連して、何ら説明を行っていない。また、夏に向けての節電計画などについても何ら対策を打っていないのが現状である。

思い出してほしい、昨年の今頃東京・東北電力管内では計画停電という緊急策を実施してきた。夜のネオンが消え、鉄道のホームの電気が削減され、いろいろな不便を感じながらも、被災した方々に比べれば何ら不便を感じないと言ってきた。そうしたことをもう一度思い出してほしい。

なぜ政府は、国民に対してそのようなことを呼びかけないで、「原発が再稼働されなければ集団自殺だ」などという発言が出るのだろうか。

今年の春の高校野球の宣誓を政府は聞いてほしい。今一度、日本が一つになり、苦難を乗り越えることができれば、その先に必ず幸せが待っている・・・

今道を誤れば、将来、遠い将来の子供たちに禍根を残すことになるであろう。

石巻工業・阿部翔人主将

「東日本大震災から1年、日本は復興の真っ最中です。被災をされた方々の中には苦しくて心の整理が付かず、今も当時のことや亡くなられた方を忘れられず、悲しみに暮れている方がたくさんいます。人は誰でも答えのない悲しみを受け入れることは苦しくて、つらいことです。しかし、日本が一つになり、その苦難を乗り越えることができれば、その先に必ず大きな幸せが待っていると信じています。だからこそ、日本中に届けます。感動、勇気、そして、笑顔。見せましょう、日本の底力、絆を。われわれ高校球児ができること、それは全力で戦い抜き、最後まであきらめないことです。今野球ができることに感謝し、全身全霊で正々堂々プレーすることを誓います」

* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。
* 当社は、お客様との取引によりいただいた個人情報、各種商品・サービスに関するご提案をするために利用することがあります。